

# 「結の里」古田(西之表市)の宝は人にある

西之表市立古田小学校

本校は、西之表市街地から10kmほど南下した古田盆地にあります。雨が多く、時折霧が発生し、冬季は降霜も見られ、種子島の最寒冷地です。地域住民の多くは、明治初期から大正にかけて県内外(甑島、桜島、奄美諸島、静岡、大分等)から移住し、開拓を行ってきた子孫です。産業の中心は農業で、中でも製茶業は種子島でも古田が島内一で、「日本一早い新茶の里」として知られています。

校区は、第16代島主・種子島久時の母で賢母として知られる「古田御前」ゆかりの地で、校内には屋敷跡石碑や母子像があるほか、校歌にも歌われています。また、「御前窯(八窯)」があり、毎年、冬に焼物作りを行います。

豊受神社の秋の大祭「願成就」で奉

納する「古田棒踊」と「古田獅子舞」(いずれも無形民俗文化財)は、校区民によつて継承され、歴史と伝統を受け継ぐ文化豊かな校区です。棒踊は例年子供たちが運動会で披露していますが、コロナ禍で自粛していました。しかし、昨年度は保存会の協力を得て、運動会で披露することができました。古田校区は、これまでも県内外から多様な人材を受入れてきました。現在も「御前の里留学」という制度で、古田小・西之表・種子島で学びたいという子供たちを、毎年、受け入れていきます。「結の里」古田の宝は人です。これからも、人から人へとその思いはつながれていくのです。

(校長 豊永 守)



願成就での獅子舞



運動会での棒踊